

報告テーマ④[1801C]

国際比較：道路交通安全の目標設定と交通文化－道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究－

プロジェクトリーダー 中村 英樹

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、世界各国における道路交通安全の目標値やその設定に関する地域的差異の由来を客観的に認識し、これらを体系的に理解するために必要となる基礎情報を調査分析するものである。特に、交通安全に関わる道路交通技術と各種政策、及びその背景となる交通安全意識に着目する。

本年度(第3年度)は、昨年度に引き続き、経済状況や交通文化の異なる9カ国(うち3カ国は昨年度調査完了)を対象として、現地の研究者や行政機関の協力を得つつ、交通安全に対する態度や価値観を測定するWebアンケート調査を実施し、得られた結果の国際比較分析を行った。また、これらの対象国のうちエジプトにて現地調査を行い、行政機関・研究機関において交通安全政策や制度等に関してのインタビューを行うとともに、交通実態調査を実施することで、交通事故削減目標設定や交通実態、交通文化の理解を深めるための情報収集を行った。そして、昨年度までに現地調査を実施した対象国(カタル/UAЕ/イタリア)に日本とエジプトを加えた計5カ国については、これらの結果を包括的に捉え、各国における交通安全政策と、その背景にあるインフラ整備水準、交通安全教育、交通安全意識などとの関係について分析を行い、とりまとめた。

(2) 質疑応答

Q. 交通行動の許容度の判断について、自分に対しては甘く評価し、他人に対しては厳しく評価する傾向があるが、他人の交通行動の許容度から自分の交通行動の許容度の差分を取った意図を知りたい。

A. 自分に厳しく人に甘いなどといった国ごとの傾向を見ることができる。

Q. 文化的に考えたときに中東やエジプトでは性差もあると思われるが、結果に何らかの影響を与えているか？

A. 個人属性の中で性別だけは除いて議論した。他国と比べ中東では男性ドライバーが圧倒的に多い。ドライバーの特性に何らかの影響を及ぼしていると思われるが、解釈が難しいため本研究の中では除いている。

(3) 出席者の感想など(一部抜粋)

- ・国連などの国際機関、同業他社と情報共有してはどうか？
- ・たくさんの国際比較のアンケートのまとめがすばらしかった。
- ・興味深い内容であった。ハード・ソフト両面で、このデータを活用した、更なる安全対策につながれば。